

会 議 録

名 称	酒田市子ども・子育て会議「子育て応援」に関する勉強会	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・施設見学 子育て世代包括支援センター「ぎゅっと」 ・報告 (1)中間年におけるアンケート調査について 	
開催日時場所	平成 29 年 7 月 6 日 (木) 10 時 00 分～11 時 00 分 酒田市民健康センター	
出席者	委 員	佐藤 (徹) 委員、赤松委員、阿部 (勇) 委員、阿部 (幸) 委員、大滝 (宗) 委員、石垣委員、大滝 (晋) 委員、武田委員
	関係課等	健康福祉部長、福祉課長、健康課長、健康指導主幹、学校教育課長補佐
	事務局 (所管課)	子育て支援課長、保育主幹ほか
会議の概要	※詳細別紙	
配付資料	チラシ んゅっとのご案内 資料 中間年におけるアンケート調査 実施要綱 (案) ほか	
特記事項	傍聴者 0 名	

別紙

子ども・子育て会議「子育て応援」に関する勉強会（要旨）

市民健康センター 1階ロビー集合

【 午前 10 時 00 分開始 】

○司会進行：阿部（衛）課長補佐

お忙しい中「勉強会」にお集まりくださいます、ありがとうございます。
本日の進め方をお知らせします。

まずはじめに、子育て世代包括支援センター「ぎゅっと」を、約30分程度、施設見学します。子育て世代包括支援センターの佐藤孝センター長及び母子保健コーディネーターの土門美香保健師から説明をしていただきます。

その後、3階大研修室に移動して、約30分程度、会議を行ないます。全体でおよそ1時間を予定しております。進行にご協力をお願いいたします。

それでは早速ですが、佐藤孝センター長、よろしく願いいたします。

■施設見学

○説明：佐藤 孝 子育て世代包括支援センター長

土門美香 母子保健コーディネーター

「ぎゅっと」は29年4月から事業開始。6月16（金）改装オープン。子どもをぎゅっと抱きしめて地域で子育て家庭をぎゅっと応援するという意味・・・
（説明及び自由見学20分程度）

見学終了後、3階大研修室へ移動

■ 1. 開会

○司会進行：阿部（衛）課長補佐

前後しましたが、勉強会の開催にあたり、岩堀健康福祉部長よりご挨拶を申し上げます。

■ 2. 開会あいさつ

○岩堀健康福祉部長

本日の勉強会は、6月16日に改装オープンした「ぎゅっと」を委員の皆さまからいち早く知ってもらうと共に、所属団体や地域に持ち帰って、ぜひご活用い

ただきたいと考え、企画しました。市民健康センターに置いた目的として、まずは母子保健からはじめ、子どもが居るすべての世代に広げたいと考えております。特に産後6～8週の産褥期の過ごし方がたいへん大切です。この時期に家族等から育児援助を受けられない、或いは、特に育児支援が必要な母子を対象に、日本海総合病院産科の空きベッドを活用して、宿泊による休養の場、心のケア、そして保健指導や育児指導の支援を行なって参ります。加えて、幼児期、或いは、学齢期に向けて、保育・遊び・躰け・母子の仲間づくりなど、子育て支援センターや民間の子育て支援機関との連携を強化して参りたいと思っております。委員の皆さまからのご指導ご協力をよろしくお願いいたします。

もうひとつお願いですが、ここの市民健康センターは、妊婦や小さなお子さんなどが集まる所でありながら、津波災害のリスクがあります。市内全域からの集まり易さや、子育て支援機関との一体化といったことを考えれば、場所としては課題が残ります。既存施設の利活用なども検討を行っておりますので、そういった部分についてもご意見をいただきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

■ 3. 自己紹介

○司会進行：阿部（衛）課長補佐

年度はじめにあたり、推薦団体の役員改選にともなう委員の交代がありました。はじめての方がいらっしゃいますので、会長から時計回りで、ひとつずつ、自己紹介をお願いします。

（会長→委員→事務局）（内容省略）

○赤松委員

公募委員の赤松です。「ぎゅっと」を見学しての感想は、私自分が子どもを育てているときに有ったら良かったな、としみじみ感じています。（子育て中の）皆さんが利用できるようになると良いなと思います。

■ 4. 報告

○司会進行：阿部（衛）課長補佐

武田会長へ議事進行を引き継ぎたいと思います。それでは武田会長よろしくお願いいたします。

○議事進行：武田真理子会長

お忙しい中お集まりくださいまして、ありがとうございます。「ぎゅっと」がせっかく出来上がりましたので、本会議メンバーは、ぜひ知ってほしいという目的で、勉強会という形でお集まりいただきました。見学して良かったと感じて

います。

今年度は、子ども・子育て支援事業計画、5カ年計画の中間年にあたります。事務局が中心になって進行状況を取りまとめ、委員の皆さまからは評価をいただいています。いろいろな事業が予定どおりに進んでいるか、或いは、目標から大きく懸け離れていれば、計画変更することも考えていかなければなりません。事務局では、そのことに関する「中間年におけるアンケート調査」を考えていて、ちょうどそのタイミングに当たりますので、報告いただいて、委員の皆さまからご意見をいただきたいと思えます。それでは事務局からお願いいたします。

○報告事項：菅原子育て支援課長

事務局からご説明を申し上げます。お手元の資料「中間年におけるアンケート調査 実施要綱（案）」をご覧ください。

・目的は子ども・子育て支援事業計画「酒田っ子すくすくプラン」における中間年の見直しをするための基礎資料を得るため。

・実施時期は8月頃。

・対象世帯は約1,000世帯。

保育園、認定こども園、幼稚園等の保育サービスを受けている世帯及び受けていない世帯を予定しています。案としては、旧3町地区から1園、川北地区から1園、川南地区から2園、認定こども園から1園、幼稚園から1園、公立保育園から2園、それ以外の未就園児を合わせて約1,000世帯を見込みます。

・調査方法はサンプリング調査。

保育サービスを受けている世帯は、保育園等の施設を經由して配付し郵便等により返送してもらいます。それ以外の未就園児の世帯は、郵便等により配付回収を予定しています。

・調査項目は10項目。

子ども・子育て支援事業計画P.96～98にありますように、ニーズ調査に基づいて数値目標を設定している部分がありますので、同様の項目についてアンケートを実施し、比較検討できるようにしたいと考えております。具体的にはお手元の資料で「平成25年度ニーズ調査」と書いてあるところを調査していきたいと考えております。

・イメージは次ページをご覧ください。資料はイメージですが、平成25年度に実施したアンケートに倣って基本的に同じ設問内容とすることで、比較検討したいと考えております。

・取りまとめ結果は新しい任期がはじまる次回11月の本会議でご報告申し上げたいと考えております。

標本調査（サンプリング調査）の場合、統計学によると、母集団1万人を超

えると、10万人でも100万人でも必要なサンプル数に大差は無いと言われてい
ます。母集団が1万人以上の場合には、370～380人のアンケートを回収するこ
とにより、母集団の人数に関わらず、5%の誤差の範囲内で全体の傾向を把握
できます。今回の対象数は1,000世帯ですので、回収率4割程度で全体像を把
握できることとなります。以上ご報告申し上げます。

○武田会長

ありがとうございました。これから実施予定の子育て世代を対象にしたアン
ケート調査についてのご報告でした。中間年における評価については、このニ
ーズ調査に基づいて、基本的には平成25年度と比較できるような設問内容に
して、子育て世代の声を本会議で協議していきたいということでした。皆さま
からご意見ご質問がありましたらお願いいたします。

○石垣委員

質問します。対象者の中で保育サービスを受けていない家庭の割合どれくら
いでしょうか。以前は郵送でしたが同じでしょうか。

要望です。小学生と幼稚園と未就園児がいる多子世帯の場合、何通も書かな
ければいけないと困っているお母さんが居ました。今回はダブらない工夫をし
ていただきたいと思います。

○菅原子育て支援課長

未就園児の家庭は約300世帯で、郵便等による配付と回収を想定していま
す。ご要望のとおり多子世帯に配慮したいと思います。

○武田会長

具体的なご提案をありがとうございました。

平成25年度のアンケート調査では回収率がとても高かったと記憶しており
ます。8月に実施し11月に報告は、事務局での集計が大変かもしれませんが
どうぞよろしく願いいたします。

報告は、現在進行中の子ども・子育て支援事業計画を策定するにあたって行
なったニーズ調査に基づく項目で約1,000世帯を実施するということでした。
よろしいでしょうか。

(特に異議なし)

今日は「ぎゅっと」の勉強会をメインに進めて参りましたので、報告事項だ
けで協議事項はありません。折角の機会ですので、ぎゅっとを見学しての感想
でも良いですし、それに関わる今後の政策展開や実際の母子支援について、ご
意見やご提案などがありましたらお願いいたします。

○大滝（宗）委員

園長会へ配付できるように、こういった資料のデジタルデータをメールでいただいたり、ホームページからダウンロードできるような仕組みがあれば、簡単にして周知できますので、そのようにしていただきたいと思います。

○子育て支援課事務局阿部（健）

本会議の配付資料及び会議録は、少々時間をいただいて、準備が整いますと市 HP に公表しておりますので PDF でダウンロードできます。本日配付しましたぎゅっとチラシも健康課と相談しながら（ご要望のとおり）行いたいと思います。

→ぎゅっとチラシは市 HP からダウンロードができるようになりました。

実は7月1日から情報漏えい防止の関係で、市と外部（国・県以外の一般の方々）とメールをやり取りする際に制限が掛かっております。添付ファイルに数式や URL などが入っていると無害化（削除）されてしまいます。どうしたら委員の皆さまにご不便が掛からない遣り方ができるか、今後勉強したいと考えておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

○阿部（幸）委員

ぎゅっとチラシへの掲載事業を拝見すると、生後1歳くらいまでの保護者への支援という印象を持ちました。市内には交流ひろばや支援センターが有って色々な所に保育士や保健師が常駐して、相談できる場所があります。そこを利用できることが分かっている保護者は居ると思いますが、（ぎゅっとでも）1歳を越えてからの情緒面をケアしてくれたら良いと感じます。

ぎゅっとが受け入れる対象をもっと広げていくのでしょうか、それとも母子手帳交付を中心とするものになるのでしょうか。2歳以上の子どもに対してのケアをぎゅっとでも考えていच्छゃるとすれば、保育士の常駐も考えて良いのではないかと感じました。

○武田会長

切れ目のない支援という視点でのご意見でした。事務局から回答をお願いいたします。

○菊池健康課長

ご意見ありがとうございます。ぎゅっとの受け入れ態勢につきましては、基本的に子育て世代になっております。実はぎゅっとを開設するにあたり、市行政の支援事業を洗い出しましたところ、妊娠期から3ヶ月健診までの支援が手

薄でした。ということで現在はそこに力を入れて支援をしている状況ですが、機能の拡充を視野に入れており、将来的には入学までの支援をトータルで行なえるような方向にしていきたいと思っております。いまのところのメニューは3ヶ月児をベースに考えておりますけれども、3ヶ月健診以降の方でもご相談いただければ、地区担当保健師や子育て支援課などに繋ぎながら従来と変わらず支援していきたいと思っております。

将来的に色々と広げて行きたいと考えている中で、ネットワーク会議を開催しており、勉強させていただきながら進めて行きたいと思っております。

○武田会長

将来的には広げて行きたいとの説明がありました。ネットワーク会議の話が出ましたので、大滝（晋）委員、そのことについていかがでしょうか。

○大滝（晋）委員

私はネットワーク会議に出席しています。（子育て世代包括支援センターぎゅっとは、）いままで市の保健師たちが、ほぼ全世帯に渡って新生児訪問をして、支援してきた事業を一か所にまとめたという受け止め形で良いと思いません。

ネットワーク会議でも発言しましたが、ひとりの人間に対する保健師の役割というものはすごく大事で、母子保健コーディネーターの役割をすごく強調してお話ししました。母子手帳を受け取る時や、出産したときに付いてくれた母子保健コーディネーターが、色々なネットワークを活かして、この悩みだったらこの人へ、この相談だったらこの窓口へと、その子をずっと追っかけてくれる。いままでは個々の保健師がやっていたことを、子育て世代包括支援センターを作ったお陰で、そこに来れば、妊娠したときから顔見知りの母子保健コーディネーターが、必ず相談にのってくれる。いつも自分達のことを心配してくれる、というイメージだと思っています。

例えば、発達障がいのお子さんの場合、家庭環境が発達にもものすごく影響しているということが実際にあります。また、家庭内DVがあると、子どもの脳の一部が停止してしまうと最近では言われています。そういう家庭内の状況を良く知っているのは、家庭訪問をしている保健師たちです。保健師たちの役目は、これからもっともっと大事になって来ます。

母子保健コーディネーターは、発達支援室や医療に繋げるといったところまで発展できるでしょう。或いは、子どもの貧困が問題になっているので、生活が苦しそうであれば、こども食堂みたいなものを（子育て世代包括支援センターに）くっ付けることも可能になるでしょう。遣り方によっては、ものすごく広がっていくもので、本当の窓口がぎゅっとになっていくと思います。ですか

ら、これで完成している訳ではなくて、広げていこうと思えばいくらでも、まだまだ広げられる事業です。それを行政だけに頼るのではなく、我々医療機関も含めて、子どもに関わるすべての機関がぎゅっとを窓口にして広がっていくことができる、すごく未来がある事業だと思っているので、そういった意味では惜しみなく協力して行きたいと思っています。

別に7歳までではなく、ここを切っ掛けに子どもを取り巻く環境が整備され、子どもに関しては、ここに来れば母子保健コーディネーターがアドバイスしてくれる。例えば、ちょっと障がいがあるから養育手帳をもらいたいけれどもどこへ行ったら良いか、いままでは市役所の中をウロウロしなければならなかったことが、ここに来て母子保健コーディネーターに相談すれば、すべての所に繋いでくれる窓口になってくれれば良いなと思っています。

○武田会長

将来の展望が見えたような気がします。どうもありがとうございました。行政だけで出来ることではないように思いますし、佐藤子育て世代包括支援センター長と土門母子保健コーディネーターの話しを伺っても、この連携拠点を通じて、どういう風に利活用していけるかが大事だと感じました。

他にありませんでしょうか。特に無ければ終了いたします。

■ 5. その他

次回11月開催予定です。現在の委員は11月で任期満了（2年任期）となります。同じ顔ぶれでまたお会いできるか分かりません。実は私自身も、以前の体制から10数年間、携わってきましたが、若手の同僚に交代できたらと話し合いをしているところです。違うメンバーになるかもしれませんが、とても重要な会議であることは間違いありませんので、今後とも委員の皆さまのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。貴重な時間をありがとうございました。マイクを事務局にお返しします。

■ 6. 閉会

○司会進行：阿部（衛）課長補佐

ありがとうございました。以上をもちまして、子ども・子育て会議「勉強会」を閉会いたします。気をつけてお帰りください。

【 午前11時00分終了 】